

着

mono通信

yoroduya

2022・12

vol.51



原町本店
〒975-0003
南相馬市原町区栄町2-83
TEL: 0244-24-2929

いわき店
〒970-8026
いわき市平三倉69-8 第2地産ビル1F
TEL: 0246-85-5298

感謝感謝の
1年でした



みなさまこんにちは。いよいよ今年も師走になりました。毎年思うのですが、本当に1年ってあっという間に過ぎてしまいますね。年々、記憶に自信がなくなっているの、今年の出来事だったのか去年の事だったのか、月日の経つのが早すぎてついていけない状態でおります(笑)

さて、実はこの『着mono通信』ですが、先月でなんと50号目でした。でしたということは、私が全く気が付かないまま作っていたということです。記念すべき50号だったのに、あいさつ文が新蕎麦の話題だったことが少し悔やまれます。2018年7月からスタートしたこの『着mono通信』ですが、お客様にもっと着物を楽しんでいただきたい、お客様に「よろづ屋」を知ってもらいたいとの思いから始めました。最近では、読んでくださっているお客様からたくさんお声がけいただき、本当に続けてよかったと心から思っております。これからも、この『着mono通信』が、当店とお客様との懸け橋になるよう提供していきたいと思っております！！師走も張り切っていきましょう！

< 今年も1年本当にありがとうございました >

今年もたくさんのお客様に支えられ、1年の営業を締めくくることができます。本当に感謝でいっぱいの1年でした。また、一人でも多くのお客様に喜んでいただきたい思いから、毎月の催事でいろいろな企画に取り組んで参りました。これまでにはなかった企画などで、お客様の喜ぶ笑顔が見られた1年でした。本当にありがとうございました。



今年初めての企画として、原町店で開催した『凧の布展』。自然素材を生かしたバッグや、古代更紗の帯など大変好評でした。来年はいわき店でも開催します！



店外催事は、今年は『女将のセレクト市』が大好評。実際に問屋に足を運びセレクトした商品がお客様に喜んで頂けて何よりでした。来年も楽しい企画を考えます！！



6月にいわき店にて、ガラスアクセサリ作りを開催しました。ブローチにも帯留めにもなる手作りのアクセサリ作りにお客様も楽しんでいました。



年に一度の『たかはしきもの工房』のフィッティング会も、たくさんのお客様に喜ばれています。きものをやさしく、たのしく、おもしろく、来年もお楽しみに！！



『ぬびす足袋』のお見立て会もたくさんのお客様に喜ばれた企画の一つです。特に『こたび』には驚きの声や喜びの声が！！お客様に喜んで頂けて何より嬉しい企画となりました。

予告！

新春初売り『福の市』

2023年1月5日(木)～7日(土)

原町本店・いわき店 同時開催！！

毎年恒例の「丸洗い券」入りの福袋や、お楽しみ企画がいっぱい！詳しくは次回のDMで！

< よろづ屋 きものがたり～加賀友禅～ >

全国の紬や染めの産地のお話や、きもにまつわるあれこれをご紹介しますコーナー
第24回目は、加賀百万石の究極の美学

加賀友禅ならではの色彩が本当に美しい。友禅の横綱ですね。



加賀友禅(かがゆうぜん)は、石川県金沢市周辺で作られている着物で、その技法の創始者である宮崎友禅斎の名前からとられました。京都で友禅染を始め、金沢で晩年を過ごした宮崎友禅斎の指導のもと、栄華を誇った加賀藩に支えられて発展しました。加賀友禅の特徴は、「加賀五彩」といわれる藍、黄土、草、古代紫、臙脂(えんじ)を基調としていることです。また、外側から内側に向かう独特の「ぼかし」や、あえて、病葉(わくらば)を描く「虫喰い」などの表現を施すことで、写実的で繊細な模様を引き立てている点にあります。さらに、筒から絞り出した糊で絵模様を描く「糸目糊(いとめのり)」も特徴的で、水で糊を洗い流した後には細い白線が残り、その線の美しさが装飾の効果をより高めています。京友禅の淡青単彩調や金箔・刺繍がほどこされた図案に対し、加賀友禅は、紅系統を生かした深い古典色の写実的な草花模様の絵画調を中心としており、金沢の自然の美しさを感じられます。百万石の武家文化の中で育ってきた歴史から、落ち着いた武家風の趣を現代に伝えています。



もともと加賀は絹や麻の産地であり、友禅染めの水洗いに適した川や用水に恵まれた地域でした。加賀友禅は15世紀の中頃に存在していた「梅染」が始まりと言われていました。また、加賀には古くから「兼房染(けんぼうぞめ)」「色絵」「色絵紋」など多くの染色技法が伝えられており、江戸時代には「加賀のお国染め技法」として確立されました。加賀友禅は、江戸時代に加賀藩による庇護や奨励のもとで育まれ、数々の技法が専門化されました。近代に引き継がれた後、戦前戦後の奢侈(しゃし)禁止令などによって打撃を受けた時期を乗り越え、宮崎友禅斎生誕300年祭の頃を契機に再び栄えていきます。その後も、さらなる技術の進歩や協同組合加賀友禅染色団地の設立が続き、1975年(昭和50年)には国の伝統的産業工芸品に指定されました。手描き加賀友禅の工程では、合理化できる部分もあえて手仕事にこだわっています。現代も多くの作家や職人が創作活動を行っており、根気のある手作業と熟練の技によって伝統技法が伝えられています。

加賀友禅は15世紀の中頃に存在していた「梅染」が始まりと言われていました。また、加賀には古くから「兼房染(けんぼうぞめ)」「色絵」「色絵紋」など多くの染色技法が伝えられており、江戸時代には「加賀のお国染め技法」として確立されました。加賀友禅は、江戸時代に加賀藩による庇護や奨励のもとで育まれ、数々の技法が専門化されました。近代に引き継がれた後、戦前戦後の奢侈(しゃし)禁止令などによって打撃を受けた時期を乗り越え、宮崎友禅斎生誕300年祭の頃を契機に再び栄えていきます。その後も、さらなる技術の進歩や協同組合加賀友禅染色団地の設立が続き、1975年(昭和50年)には国の伝統的産業工芸品に指定されました。手描き加賀友禅の工程では、合理化できる部分もあえて手仕事にこだわっています。現代も多くの作家や職人が創作活動を行っており、根気のある手作業と熟練の技によって伝統技法が伝えられています。



着物のお手入れあれこれ

着物のお手入れはめんどうだし、お金もかかるし…など、着物は着たいけどお手入れのことまで考えると難しいと思っている方も多いと思います。めんどうなことはプロに任せて、自分でできる範囲であれこれやってみませんか？知っておいて損はないお手入れのあれこれ教えます。

<お手入れその2 洗い張り>

洗い張りは、着物の縫い目を全部ほどいてパーツに戻して(解き)それぞれを簡単に縫い合わせて(端縫い)、1枚の反物の状態に戻します。次にその反物を長い板に乗せて、水を流しながら洗剤などで洗います。この作業は、職人がひとつひとつ手作業で行います。生地につまったホコリや汚れなどが洗い流され、繊維がきれいに整います。変色やスレ以外はほとんどの汚れが落ちますが、黄変などの古いシミなどは別途で黄変抜きが必要になる場合があります。繊維に水が通り、呼吸するので生地がふっくらと整います。特に紬などは、洗い張りをすることで柔らかくふわっとした風合いで着やすくなります。袖口や裾の黒ズミが普段の丸洗いなどで取れなくなったり、生地がヨレっとした感じができたら洗い張りのタイミングになります。ただし、仕立てが必要になってくるのでコストはかかります。また、古い着物などは洗い張りで生地が裂けてしまうものもあるので、洗い張りの際は当店にご相談ください。



今月のおススメ!

御朱印帳
2,970円～
4,070円(税込)

今回のおススメ商品は、「御朱印帳」です。神社やお寺に参拝した証の「御朱印」。数年前からブームとなり、御朱印集めをする人も増えてきています。今回当店に新入荷した御朱印帳は、レーザー加工を施した木製素材で表紙を仕立て、木のぬくもりと伝統的な和柄のデザインがスタイリッシュな商品です。こちらの商品を生産しているメーカーは、人と物とのかわりを深く見つめなおし、人が人らしく、それぞれの人生の奥行きを掘られるような品を、心を込めてつくりたい。使ってくださる方がその人らしい生き方を主体的に選択し、毎日が心躍るものになるためのものづくりをコンセプトにさまざまな生活雑貨を制作しています。私もコロナが流行る前は、出かける時に御朱印帳を持参し、訪問先の神社をお参りしたりしていました。友人と御朱印巡りの旅行をしたことも何度かありいつの間にか御朱印を集めるのが楽しみの一つとなっていました。こんなおしゃれな御朱印帳があったら、もっと楽しくなるはず。今回は女将がセレクトした6柄が入荷しました。ぜひ店頭でご覧ください。



…若女将のつぶやき…

11月6日(日)に小高交流センターで開催した「わたしの糸の市」に実行委員会として参加させていただきました。絹や綿、羊毛、からむしなど糸の原料から栽培し染色して糸を紡いだり、藍染をしている方などが集い、それぞれのブースで体験や販売などを行いました。とても素敵なイベントだったので、参加させていただいて本当に良かったと心から思いました。草木染した糸の美しさや、藍染の奥深さなどにワクワクしました。また来年一緒にさせていただけたらと思います!!

そこで…絹糸を使ったワークショップを原町本店で1月19日(木)、20日(金)に開催することにしました。詳細は次号の「着mono通信」をご覧ください。楽しみ～♪

